

特定非営利活動法人 みなみ区民利用施設協会
令和7年度全体研修実施報告

令和7年9月16日(火)、みなみ区民利用施設協会の全職員・スタッフを対象とした「全体研修」が開催され97名が参加しました。当協会の基本方針に掲げる「地域住民の活動支援」を進めるためには、地域を知ることがとても重要です。そこで、今回の研修では、地域との関わりの深い社会福祉協議会について南区社会福祉協議会の森下次長よりお話をいただきました。

研修テーマ1 「区社協・地区社協って何?」

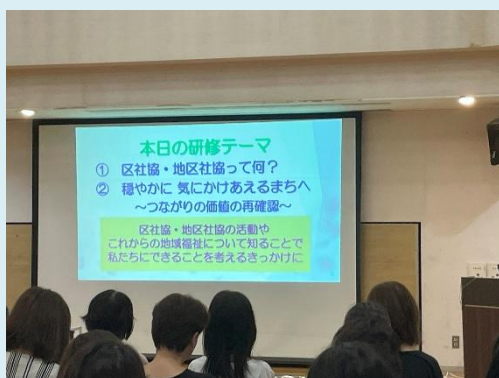
研修テーマ1では、県社協、市社協、区社協などの違いや、それぞれの役割、事業の内容などを教えていただきました。「困りごと」とともに変化してきた地区社協の活動が、「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会」の実現への大きな力になっていることを学びました。



研修テーマ2

「緩やかに気にかけてあげるまちへ ～つながりの価値の再確認～」

研修テーマ2では、人生100年時代、人口減少となるこれからの社会で、「子ども・高齢者・障害者などすべての人々が地域、暮らし、生きがいとともに創り、高め合うことができる『地域共生社会』は地域だからこそ実現できるとのお話をいただきました。「助け上手・助けられ上手」になることの大切さを学びました。



参加者からは「社協とは良くきいてきたが、正確な組織は理解していなかった。こんなに細かく分かれていることを初めて知った」「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなでつくり出すことはとても素晴らしいことだと思った」「他人事ではない事柄ばかりで、自分の無知を痛感させられた。安心して暮らせる地域づくりに参加したい」など、多くの声がありました。